

イベント 丸山千枚田探訪 & 熊野三山参詣

11月12日(月)～13日(火)の2日間、31名のご参加により、熊野市紀和町の丸山千枚田探訪と熊野三山参詣の研修旅行を実施した。

熊野市地域振興課・森岡さんと紀和町ふるさと公社・長野さんの出迎えを受け、全体を見渡せる場所で概要の説明をしてもらった。その後、1,340枚の棚田の中で最も小さな3株だけという田を見学、傍らの畦に一輪のリンドウの花を見つけカメラに収め、探訪記念の写真撮影を済ませて滞流荘に戻る。

長野さんから、丸山地区の概要(歴史など)、千枚田の推移(復元に向けた取り組み)特に「丸山千枚田保存会」発足に至る経緯、現在の組織、「丸山千枚田条例」の制定、「オーナー制度」の制定と関連するイベントやボランティア活動、等々の説明をしていただく。



千枚田は、耕地の大部分が山腹の急峻な斜面に幾重にも描かれた棚田であり、棚田百選にも選ばれている。慶長6年(1601)には7ha、2,240枚という記録がある。明治時代には開墾で11haまで拡大し、昭和30年代までは維持されてきた。しかし、40年代に入り、高度経済成長の流れの中で若年層の都市部への流出、後継者不足や減反政策、過疎化や高齢化に伴い、作業効率の悪い棚田は、徐々に耕作放棄地となり荒廃の一途を辿る。平成の初期には、530枚、約4.6haまで減少した。

危機的状況が続く中、地元の住民たちは、「自分たちの代で、この貴重な文化遺産をなくすわけにはいかない。素晴らしい景観と農耕文化を後世に残し伝えなければならない。」と立ち上がり、平成5年8月に地区住民全員による「丸山地区千枚田保存会」を結成し、千枚田の復元と保全活動が始まった。会結成後1年間で、810枚の復元に成功し、1,340枚という日本でも最大規模の枚数を誇る棚田となった。1枚当たり約10坪、ほとんどが手作業で守り続けられている。

平成5年4月、熊野市が100%出資を行い、「財団法人 紀和町ふるさと公社」を設立、平成6年に全国初の千枚田条例を制定、市・保存会・公社の3者による千枚田復元へ向けての連携体制が整えられてきた。7.2haのうち、3.4haは地域住民による個人管理、3.8haは公社が管理し、その中の1.54haがオーナー田となっている。

現地研修を通して、先人たちの智慧と汗の結晶とも言える「歴史地理的文化遺産」は、単にその地域に依存するだけではなく、全国的な広がりの中で国民的文化遺産としての認識の下に、保全を進めていくことが求められているとも思う。

翌日は、熊野三山を参拝した。原生林の中の巨木、巨岩、滝など、人知を越えた自然の造形に、古代の人々が畏怖の念を抱き、自然を崇拜したことを多少なりとも感じる事ができた。

終わりにになりましたが、速玉大社では、上野宮司の奥様にお出迎えいただき、正式参拝の後、宮司様からお話しを拝聴、寿酒や牛玉符・長寿箸を賜りました。厚くお礼を申し上げます。

(文責：鈴木)

| | | | | |
|------------------|-------|-------------------------------|----------------|-------|
| 野菊晴にふるさと匂ふ千枚田 | 弓場 京子 | 私 田 一 句 (N.F.F.N) | もみじ狩酔へば酔ふほど色変る | 塩本美都子 |
| 災害の傷痕癒す紅葉かな | 守口 京子 | | トロッコの終着駅や谷紅葉 | 松本 武彦 |
| もみじ消え十津川河原痛ましき | 和田 啓志 | | 大崩壊怒れる山の紅葉かな | 古川 祐司 |
| 熊野路やパッチワークにもみずりて | 鈴木 末一 | | 山霧や平氏ゆかりの熊野みち | 平 常男 |
| 熊野路のトロッコで行く秘湯かな | 寺田 孝 | | ゆさゆさと谷瀬の橋で紅葉狩り | 阿部 和生 |
| 山削り岩を流して台風禍 | 木村 宥子 | | 秋風のさやさやさと千枚田 | 豊島すみ子 |
| 熊野路の谷間に映える紅葉かな | 藤田 秀憲 | | 紀の国に紅葉ひとひら舞扇 | 谷川 雅邦 |
| 大滝の幣をくぐりて落ちにけり | 木村 優 | | 秋の風熊野の山に吹き渡る | 奥野美佐子 |
| 朝霧に浮かぶ熊野の神の国 | 川口 達夫 | | 秋深き熊野詣の古代神 | 村上 雄之 |
| 秋色の山の吊橋脚ふるえ | 池田 信明 | | 峡谷に紅葉黄葉の流れゆく | 羽尻 嵩 |
| 夕日さす風屋のダムに鴨一羽 | 弓場 厚次 | | ナギ大樹秋天にありバスの旅 | 辻本 信一 |
| こもりくの大権現や落葉踏む | 青木 幸子 | | もみずるや宴の後の湯のけむり | 川井 秀夫 |